

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュグループ

2019年1月31日

各位

2018年12月期連結決算および2019年12月期計画

- ・ 売上収益 5,798 億円、Core 営業利益 1,303 億円。いずれも 2 期連続で過去最高を更新
- ・ 2018 年度期末配当予定額は、期初予想比 24 円増配の 55 円（年間配当 86 円）
- ・ 2019 年度は海外製商品売上高とロイヤルティ及びプロフィットシェア収入の増加により増収増益の見通し

中外製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長 CEO：小坂 達朗）は、本日 2018 年 12 月期連結決算および 2019 年 12 月期計画を発表いたしました。

2018 年度の業績は、血友病 A 治療薬ヘムライブラ®、がん免疫チェックポイント阻害剤テセントリク®をはじめとする新製品の貢献や国内外における主力品の好調、長期収載品の譲渡および糖尿病領域開発品の導出に伴う一時金収入を主因とするロイヤルティ及びその他の営業収入の増加が牽引し、増収増益でした。売上収益、営業利益、当期利益は、いずれも 2 期連続で過去最高を更新しました。こうした好業績を反映し、当社の配当方針を踏まえ、期末配当金は期初予想に 10 円の増配及び 14 円の特別配当を加えた 1 株当たり 55 円を予定し、この結果、年間配当金は 1 株当たり 86 円、Core 配当性向は 48.7%となります。

(億円)	2018 年	2017 年	前年同期比
連結損益 (Core 実績)			
売上収益	5,798	5,342	+8.5%
製商品売上高	5,278	4,993	+5.7%
ロイヤルティ及びその他の営業収入	519	349	+48.7%
営業利益	1,303	1,032	+26.3%
当期利益	973	767	+26.9%
連結損益 (IFRS 実績)			
売上収益	5,798	5,342	+8.5%
営業利益	1,243	989	+25.7%
当期利益	931	735	+26.7%

2019 年度は、後発品を含む競合および薬価改定の影響により国内製商品売上高は減少を見込むものの、アレセンサ®のロシュ向け輸出の伸長およびアクテムラ®の持続的な数量成長による海外製商品売上高の増加、主にヘムライブラに関するロイヤルティ収入の増加等により、増収増益の見通しです。配当予想額は 1 株当たり 96 円、予想 Core 配当性向は 48.5%です。

(億円)	2019 年見通し	2018 年実績	前年同期比
売上収益	5,925	5,798	+2.2%
Core 営業利益	1,430	1,303	+9.7%

● 2018年12月期連結決算

[売上収益]

- ・ 国内製商品売上高は、自社創製の血友病 A 治療薬ヘムライブラ、がん免疫チェックポイント阻害剤テセントリクをはじめとする新製品の貢献や骨・関節領域の主力品の堅調な推移により薬価改定の影響を補い、タミフル[®]を除くベースで前年並みの 3,892 億円 (+0.2%) となったものの、行政備蓄が大きく減少したタミフルの影響により、全体として 3,999 億円 (△1.3%) となり前年より減少しました。
 - がん領域：4月に発売したテセントリクの売上が91億円となり、主力品であるALK阻害剤アレセンサが好調に推移したものの、4月の薬価改定の影響等を受けてハーセプチン[®]とリツキサン[®]の売上が減少し、全体として前年並みでした。
 - 骨・関節領域：関節リウマチ治療薬アクテムラ、骨粗鬆症治療剤エディロール[®]を中心とする主力品の堅調な推移により増収でした。
 - 腎領域：4月の薬価改定の影響等を受け、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤オキサロール[®]や腎性貧血治療薬ミルセラ[®]等の売上減により、減収となりました。
 - その他領域：5月に発売した血友病 A 治療薬ヘムライブラが順調に市場浸透し30億円の売上となったものの、太陽ファルマ株式会社へ譲渡した長期収載品の減少等により、二桁の減収でした。
- ・ 海外製商品売上高は、アクテムラ、アレセンサのロシユ向け輸出の増加により、1,279 億円 (+36.1%) に増加しました。
- ・ ロイヤルティ及びその他の営業収入は、太陽ファルマ株式会社への長期収載品の譲渡や、イーライリリー・アンド・カンパニーへの糖尿病領域開発品 OWL833 の導出に伴う一時的な収入等により、519 億円 (+48.7%) に大きく増加しました。

(億円)	2018年	2017年	前年同期比
製商品売上高	5,278	4,993	+5.7%
国内	3,999	4,053	△1.3%
タミフルを除く	3,892	3,884	+0.2%
がん領域	2,257	2,259	△0.1%
骨・関節領域	1,005	933	+7.7%
腎領域	363	393	△7.6%
その他領域	268	299	△10.4%
タミフル	107	169	△36.7%
通常	101	119	△15.1%
行政備蓄等	5	50	△90.0%
海外	1,279	940	+36.1%

[Core 営業利益]

- ・ 製品別売上構成比の変化およびロイヤルティ及びその他の営業収入の増加等により原価率が改善し、Core 売上総利益は 3,179 億円 (+13.0%) の二桁増でした。
- ・ Core 売上総利益の増加に対し、研究開発費を中心とする Core 経費 (1,876 億円、+5.3%) の増加は一桁台にとどまりました。この結果、Core 営業収益は 1,303 億円 (+26.3%) となり、対売上収益営業利益率は 22.5% で前年同期比 3.2%pts 改善しました。

● 2019 年 12 月期計画

[売上収益]

- ・ 国内製商品売上高は、ヘムライブラやテセントリク等の新製品の伸長の一方、後発品を含む競合及び薬価改定の影響による売上高の減少がこれを上回り、3,891 億円 (△2.7%) と前年を下回る見通しです。
- ・ 海外製商品売上高は、アレセンサのロシユ向け輸出の順調な伸長とアクテムラの持続的な数量成長により、1,389 億円 (+8.6%) に増加する見通しです。
- ・ ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入は、645 億円 (+24.3%) となる見込みです。このうちロイヤルティ及びプロフィットシェア収入は、主にヘムライブラに関するロシユからのロイヤルティ収入の増加により、535 億円 (+122.0%増) となる見込みです。その他の営業収入は、前年に長期収載品の譲渡による一時金収入を計上したこと等により減少し、110 億円 (△60.6%) となる見通しです。

[Core 営業利益]

- ・ 売上収益の増加を主要因とし、Core 売上総利益は 3,400 億円 (+7.0%) となる見通しです。
- ・ Core 経費は 1,970 億円 (+5.0%) となる見込みです。このうち研究開発費は、1,020 億円 (+8.3%) を見込んでいます。
- ・ 上記により Core 営業利益は 1,430 億円 (+9.7%) となる見通しです。

Core 実績について

当社は IFRS 移行を機に 2013 年より Core 実績を開示しております。Core 実績とは IFRS 実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであり、ロシユが開示する Core 実績の概念とも整合しております。当社では Core 実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

以上